

スマートスクール構想が目指すもの

令和 6 年 4 月

秦野市教育研究所

児童生徒に一人 1 台貸与された学習用端末の活用も 4 年目となり、ICTの活用が日常的に行われている中、個別最適な学びの更なる充実を目指すスマートスクール構想の実現に向け、市内全ての教職員からこの新たなミッションに共感する教職員を、秦野と世界との学びの架け橋となる人材（グローバルリーダー）として公募し、「現状維持は衰退」という理念で新たな検証改善サイクルの確立に資するC B Tの本格導入につなげます。

1 本構想の目的

次期学習指導要領改訂のポイントともなるウェルビーイングな学び舎づくりを目指すためには、現行の学習指導要領が目指す新たな学力観を定着させた授業改善が大変重要となります。

そのためには、評価と指導の一体化を図ることが急務となり、小学校であれば従来の教材購入・採点・集計の、中学校であれば従来の作問・印刷・採点・集計のワークフローをデジタル化するC B T（※タブレット端末等を用いて試験を行うこと）の本格導入を目指すものです。

2 期待される具体的な効果

- (1) 評価と指導の一体化による新たな学力観に基づいた授業改善
- (2) 児童生徒と向き合う時間の確保による個別最適な学びの実現
- (3) 保護者の負担軽減
- (4) 新たな検証改善サイクルによる学びの連続性確保

3 これまでの経緯

令和 4 年 2 月に 8 校が参加した市独自の試行に続き、令和 6 年 1 月にはスマートスクール実証研究校を中心に参加を希望する 21 校により、一人に 1 台貸与されたタブレットを活用した第 2 回目の C B T のトライアルを実施してきました。

4 今後の具体的な取り組み

- (1) 各校より意欲の高い人材をグローバルリーダーとして任命する。

- (2) グローカルリーダーは目的や具体的な成果につながるC B T向けの問題を発見・作問する。
- (3) タスクフォースを開催し、ブラッシュアップを図る
- (4) 今後予定されるO E C D教育局主催のオンラインフォーラム等に参加して意識向上を図る。

5 対象教科及びC B T範囲 * 単元、教科書範囲は後日提示

- (1) 小学校5年の国語
- (2) 小学校5年の算数
- (3) 中学校2年の国語
- (4) 中学校2年の数学

6 今後のスケジュール（案）

- 4月10日（水）グローカルリーダー公募開始
- 4月17日（水）公募締め切り
- 4月26日（金）第1回タスクフォース開催（事業説明会・グループ討議）
- 4月26日（金）第2回タスクフォース開催（委嘱状交付後）
 - *講師は 京都女子大学教授 水戸部修治先生
- 5月31日（金）ファーストステージ（作問一次締切）
- 月 日（ ）第3回タスクフォース学習会（予定）
 - *京都女子大学教授 講師水戸部修治先生
- 6月30日 セカンドステージ（作問二次締切）
- 7月30日 ファイナルステージ（最終締切）
- 8月 第4回タスクフォース開催（標準問題の決定）
- 11月以降 順次各校にてC B T実施
- 12月 第5回タスクフォース開催（オンラインによる年間反省）

7 留意事項

- (1) 作問はM E X C B T等活用し今あるものから効果的な問題を探しても良い。
- (2) 全国学力・学習状況調査を分析し、その類似問題の洗い出し、今求められている学力を教職員がとらえ、その類似問題を作成しても良い。
- (3) 評価と指導の一体化の観点から具体的な授業改善の提案も可とする。
- (4) 作問内容は公開まで守秘義務が伴う。

- (5) 校内の教科部会等で趣旨の共有を行い、作問者を増やす
- (6) 作問の提出先はクラスルーム等とする。後日お知らせします。

8 第一回タスクフォースの流れ

- (1) 本研究の概要説明ならびに委嘱状の交付
- (2) グループ協議…単元、範囲の話し合い
- (3) 水戸部修治先生の講演から、学びのベクトルを確認（アンケート集約）
- (4) 5月31日までの作問コンセプト・作問範囲等を教育委員会メール配信